

第3回 放射能の農畜水産物等への影響についての研究報告会
2012年5月26日



警戒区域内で原発事故後105日間飼養 されていた原種豚の生殖機能について (中間報告)

農学生命科学研究科 附属牧場

研究の背景（豚の生産）

- 豚を約980万頭飼養し、豚肉約128万トンを生産（47%輸入）
- 主に南九州・関東・東北で生産



（2010年度）

研究の背景（原種豚の役割）



ランドレース
(L)
繁殖能力
精肉用



デュロック
(D)
産肉能力
強健
精肉用



大ヨークシャー
(W)
繁殖能力
ベーコン用



ハンプシャー
(H)
産肉能力
哺育能力
精肉用



バークシャー
(B)
産肉能力
強健
精肉用

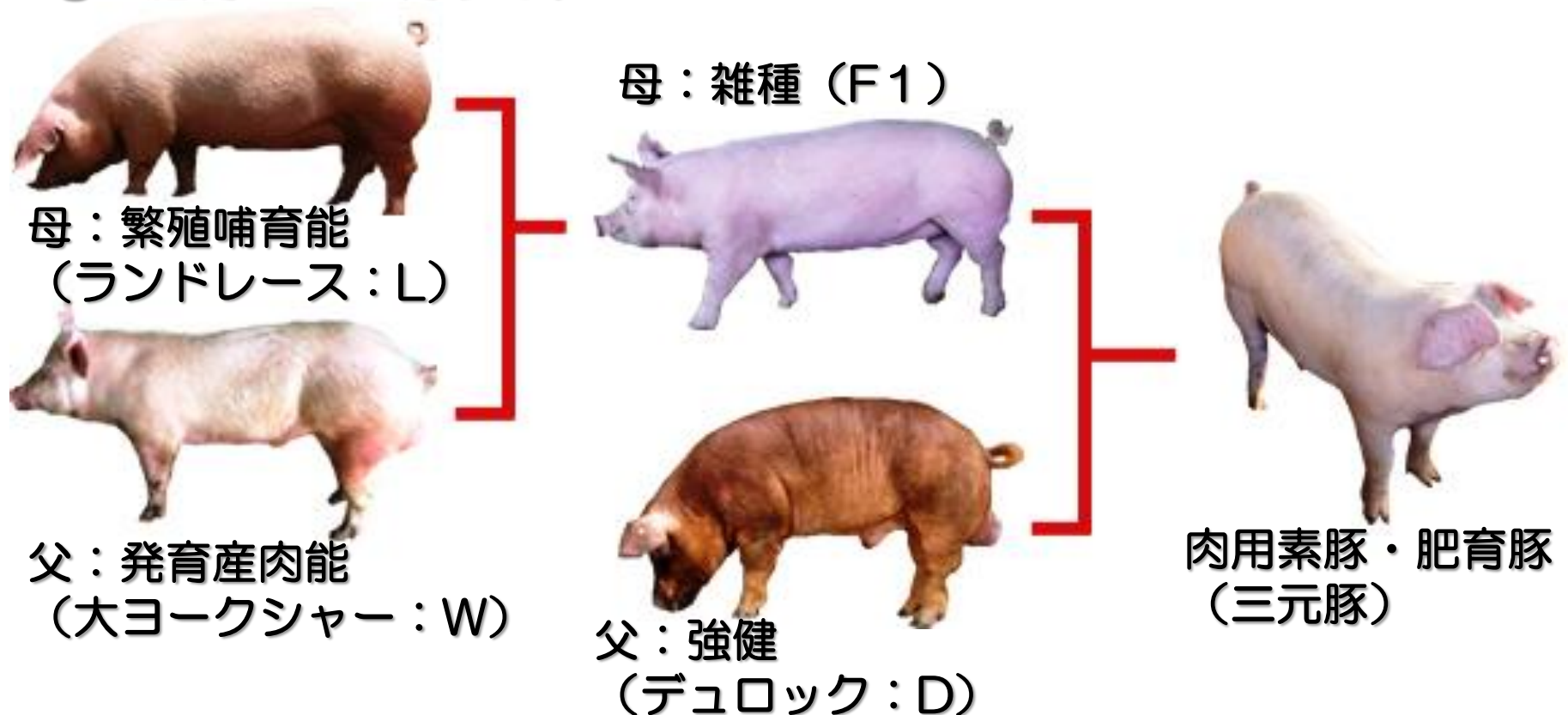


中ヨークシャー
(Y)
繁殖哺育能力
強健
精肉用

ポーランドチャイナ・チェスターホワイト・スポッティド・ラージブラック・ブリテッシュサドルバック・ウェルシュ・ミネソタ2・ラコムなど。

研究の背景（原種豚の役割）

ハイブリッド効果を期待して3～5種 of 原種豚を交配し（三～五元豚）肉用素豚（肥育豚）を生産する。これを6ヶ月かけて約120kgに肥育して出荷する。



研究の背景

警戒区域内（20km圏内）における家畜の飼養頭数

豚：約3万頭

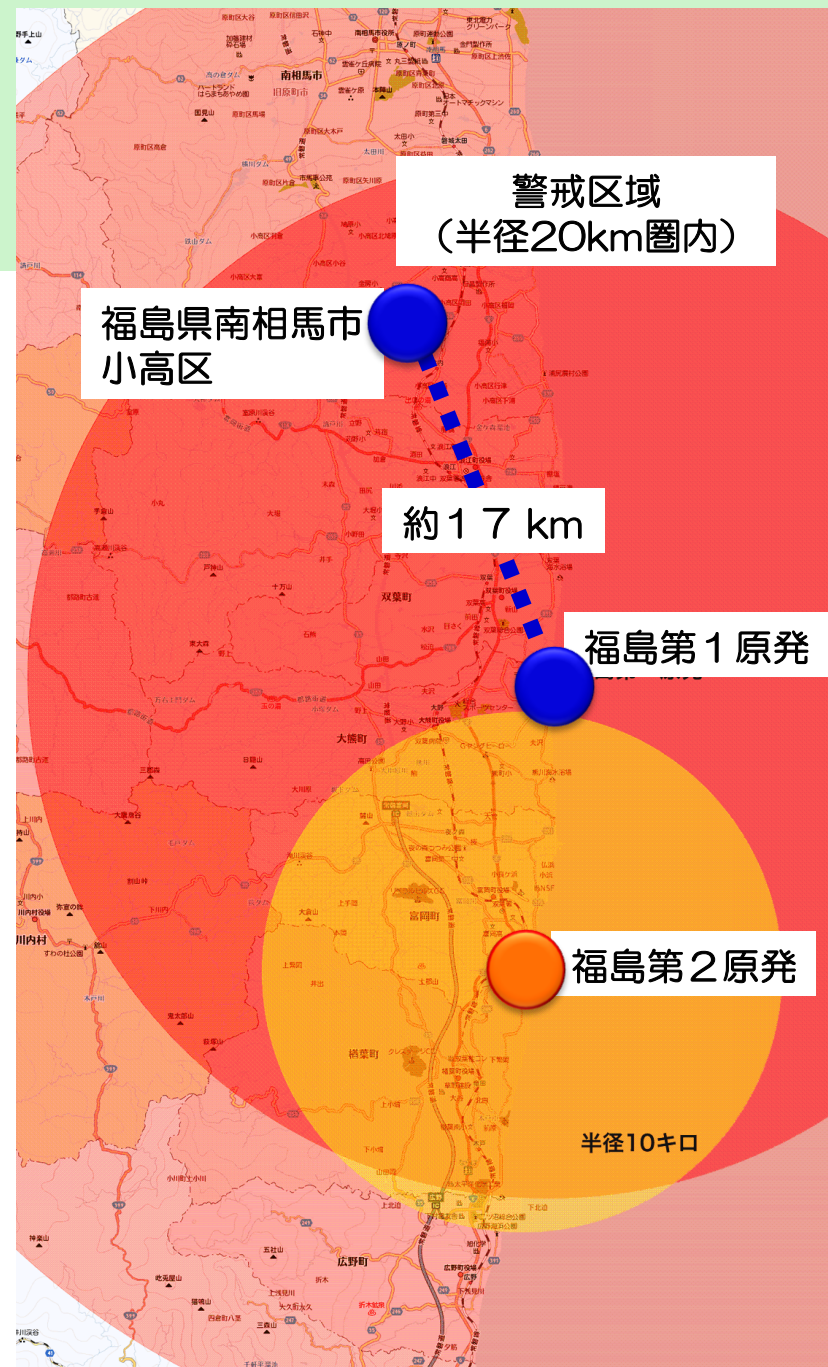
牛：約4千頭

馬：約100頭

鶏：約90万羽

畜舎：約380所

（平成22年10月）



研究風景



種豚の救済（2011年6月末）

救出原種豚



ランドレース

雄：1頭
雌：1頭



デュロック

雄：3頭
雌：8頭



大ヨークシャー

雄：4頭
雌：2頭



バークシャー

雄：0頭
雌：1頭



中ヨークシャー

雄：2頭
雌：4頭

研究風景

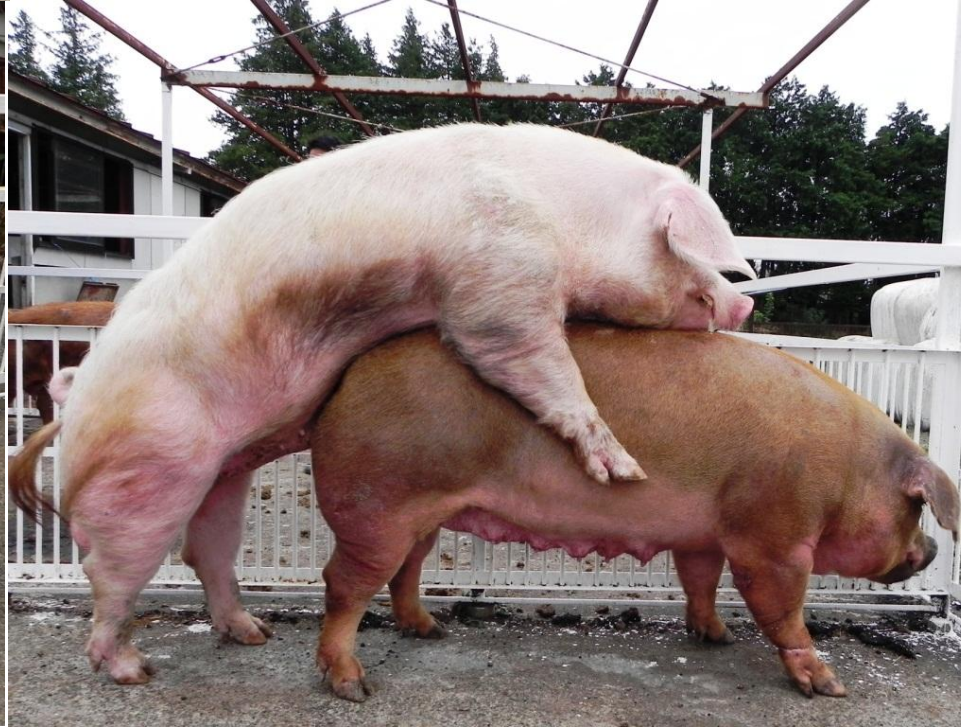


放射線モニタリング

成 績

- 被曝豚の健康評価（体尺・摂餌量測定・血液生化学・血液学検査）、免疫機能検査、ストレス、発情行動観察などを行った結果、特段の異常を見出さなかった。
- 飼育舎空間線量測定、飼料、飲料水、糞尿および斃死豚臓器における放射性物質測定の結果、飼育環境における放射能被曝はなく、放射性物質残留もないことを確認した。

研究風景



生殖機能評価と交配

成 績

- 生殖機能に問題がないと判断後交配し、妊娠・出産を確認。

父豚・母豚	出産日	雄仔豚（頭）	雌仔豚（頭）	合計（頭）
中ヨークシャ 中ヨークシャ	1月19日	3	6	9
ランドレース 大ヨークシャ	2月17日	6	6	12
ランドレース デュロック	2月23日	2	5	7
ランドレース デュロック	3月7日	3	4	7
中ヨークシャ 中ヨークシャ	3月16日	10	6	16
		24	27	51（46）

研究風景



出産と哺育



次世代の生殖機能評価

月齢	雄	雌
4		発情兆候
6	射精能	
8	性成熟	排卵
10	繁殖供用	繁殖供用